



時間との戦い

今日で10月も終わり。ハロウィーンなどと浮かれている場合ではない…って、あまり浮かれないところが日比谷生はなかなか偉いのである。世の中では、このアホらしいお祭りの影響をまともに受けている学校もあるとのこと、やれやれ…である。

明日はいよいよ特別時間割の発表。締め切りまであまり時間はないが、もはや自分のやるべきことは分かっているはずなので、12月の後期中間考査以降、自分に必要な学習は何なのかをもう一度確認して、必要な科目を選択しよう。

選択の基本は、文系なら「地歴・公民をできるだけ選択する」、理系なら「理科をできるだけ選択する」である。そして、これらの科目の合間合間に、国数英で必要となる演習を入れると良いだろう。国数英は、センター試験までは、それ用の問題集を使った演習、センター試験後は、二次試験を意識した記述式問題の演習が中心となる。今年はセンター試験が遅いので、二次試験を意識した記述式の演習は4日間しか日程がなく、十分な時間がとれないのが現状だが、二次試験に関しては、個別の添削指導の方が圧倒的に効果的なので、その指導を継続して受けていれば大丈夫だから、心配することはない。

*

受験は時間との闘いだし、特にセンター試験ではその印象が強い。国数英の場合、得意な科目であっても「余裕～～！」といった感じで終われることはめったにないだろう。不得意科目ともなれば、あとせめて10分、いやいや5分でも…といった気持ちになることが多いはずだ。だから、この時期になると、

どうしても時間を意識して準備することになりがちだが、そこがなかなか難しいのである。というのも、以前、国語の勉強法のことでも書いた気もするが、不得意な科目に関しては、時間をかけて問題を解くことが必要な場合もあるからである。

例えば、国語のセンター試験の問題を解く際、何も考えることなくいきなり選択肢を読むから頭が混乱するのであって、選択肢を読む前に自分なりの解答を用意しておく（もちろん細かなところで最終的に2択になったりするのだが）、正しい方向性の選択肢を大きくはずれることなく選べるようになる。ただし、そのためには最初のうちは $+α$ の時間が必要になるに違いない。しかし、ここをいつまでも省略していると、結局は読む力がつかないままになってしまい、うまく行けばイイ点をとれるが、悪くするとヒドイ点を頂戴することになってしまうのである。

だから、不得意な科目に関しては、12月の半ばくらいまで、時間を意識しつつも、あまりそれに縛られすぎることなく、しっかりと自分で考えて、自分で答えを出す練習をしていかないといけないのである。

これは記述式の問題も同じで、添削を受けている人は、年内くらいまでは、多少時間がオーバーしても仕方ないと腹をくくろう。その代わりに、どのくらいオーバーしてしまうのかを記録しておいて、センター試験以降は、それを徐々に縮めるようにする。一般的に記述式問題の場合は時間に余裕がある場合が多いので、本当の力が身につくまできさえすればそれほど心配することはないのである。